



ル 4  
4565  
1





門 九 4  
號 4565  
卷 1

丹羽桃溪畫圖

河內名所圖會



學 國 藏  
1910.19  
藏 書



河內國名心國之有  
 大凡必錄古蹟兒於史或著  
 於國風者七多而樂而為之  
 於古山嶽古和古國母於  
 已以之標津河內和象此  
 於古也標京二國名不國







此卷之二少年以家世之初  
士族志在游學成之即如賀  
於父事也此字或內如環國  
說也其竟事也作者之功亦  
不淺解是向老矣多有如白如  
國名之國之國之國之國之國

河內序一

公乃題一之於其卷之云  
亨和之年秋七月初六

花山院大納言兼右大將愛德卿

通為一人撰





河内名心之賦



通齋爾亞相君玉藻の景景のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら

神日本盤余亮のまゝのうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら  
ふり小冠の影影のうらふり小冠の影影のうら

河内序ノ三

秋の色小志のれぬねもゆく大江北のなをさう  
往駒を満金剛山をさうさうさうさうさうさう  
若電<sup>コキリ</sup>ぬ切れわくきつた影を尾の目つやうら  
もるるれくさうさうさうさうさうさうさう  
石川乃さうさう電瀬川れ麓や南を川ぬゆき  
まの川を七夕はめふちうらんと業をさう  
あめゆきさうさうさうさうさうさうさう  
名のこま一山嶺を河上さうさうさうさう  
十二峰内ハさうの國さうさうさうさうさう



と先づ人端は日向の訛り入一大方この園はちやひ  
あふれは神小襖一日向一園のちやひ一野舟比野に

及正のまの重名古の蹟交飛ひひ一の馬の傷里上土何の里ま安に  
ちよひかりらるる心の志のひ路池は狭山の池あふれを磨う一ちよひる  
月のあけまひ一絶河の池は衿子コサモコせや一公思の橋をち早の橋  
久弟の心橋は河の備一たのまき乃神のまらひ結ひ一もさか  
城江は早赤坂小根内フナマ金胎ま城龍泉寺の城をのみ形橋  
羅城ユタヒロ一社を平岡興田壺井道明寺の社佐ちまら  
其外延喜式内のを一ちよひ一寺は天野は寺まき

後村上のみやまのりまき一山天野ま後次観心寺ハ橋ま言提前  
ちよひ弘川寺のあり城ま喜ま弘法ち所の遺蹟あり  
上のちよひ一房の思の北山山下のちよひハ神妙橋まま  
長はちハ源まの蹟はた一玉のまハ橋まハ川まま  
風ままら一葛井まハ園のうの孔可なり一車路ま  
は園の持まあまの系ま古蹟ハ形まの能ま清の院今ハ買れ  
市壺井ハ源家祖傳のまなり墓ハ王仁の墓ま真雅の墓  
橋正成正行の墓まあま園ハ畿内州の都ま山背ハ  
か一ら一太和橋を膳一ちよひ美紀仔ハ尾ま



山川乃幸るる一帯也凡一帯は木の葉はあはれなり  
 美たはれとて原の歩法に原るるもあはれなり  
 西のついでに原るるもあはれなり  
 今もあはれなり

享和よりめの集るの社

秋里竹離書



河内序ノ五

彫工井上

河内名所圖會卷之壹

錦部郡

國師之記 天野山 金剛寺 護摩堂 天野山什寶 加賀田八幡 麻山 烏帽子形古城 錦織神祠 横山天神 河合碑 行者堂 礼拜石 天野山 天野川 巖湧寺 麻王嶺 上田八幡 人麿古蹟 西條川 後村上帝行宮 南朝皇護 藥師堂 觀月亭 五弁橋 紀見嶺 觀音寺 光龍寺 上原八幡 天神祠 金胎寺古城 河合寺 二十山 高向王墓 觀心寺 實徳堂 七星除所 獨鈷五井



實上人廟  
觀心寺官符  
正儀者  
中院什室  
八幡宮  
高向齋

柳正成  
寺記  
柳氏名  
旭原  
僧善藏

正儀者  
柳氏名  
旭原  
僧善藏  
三岳神祠

法村上人廟  
正儀者  
高向玄理

河ノ壺

壺

壺

壺

壺

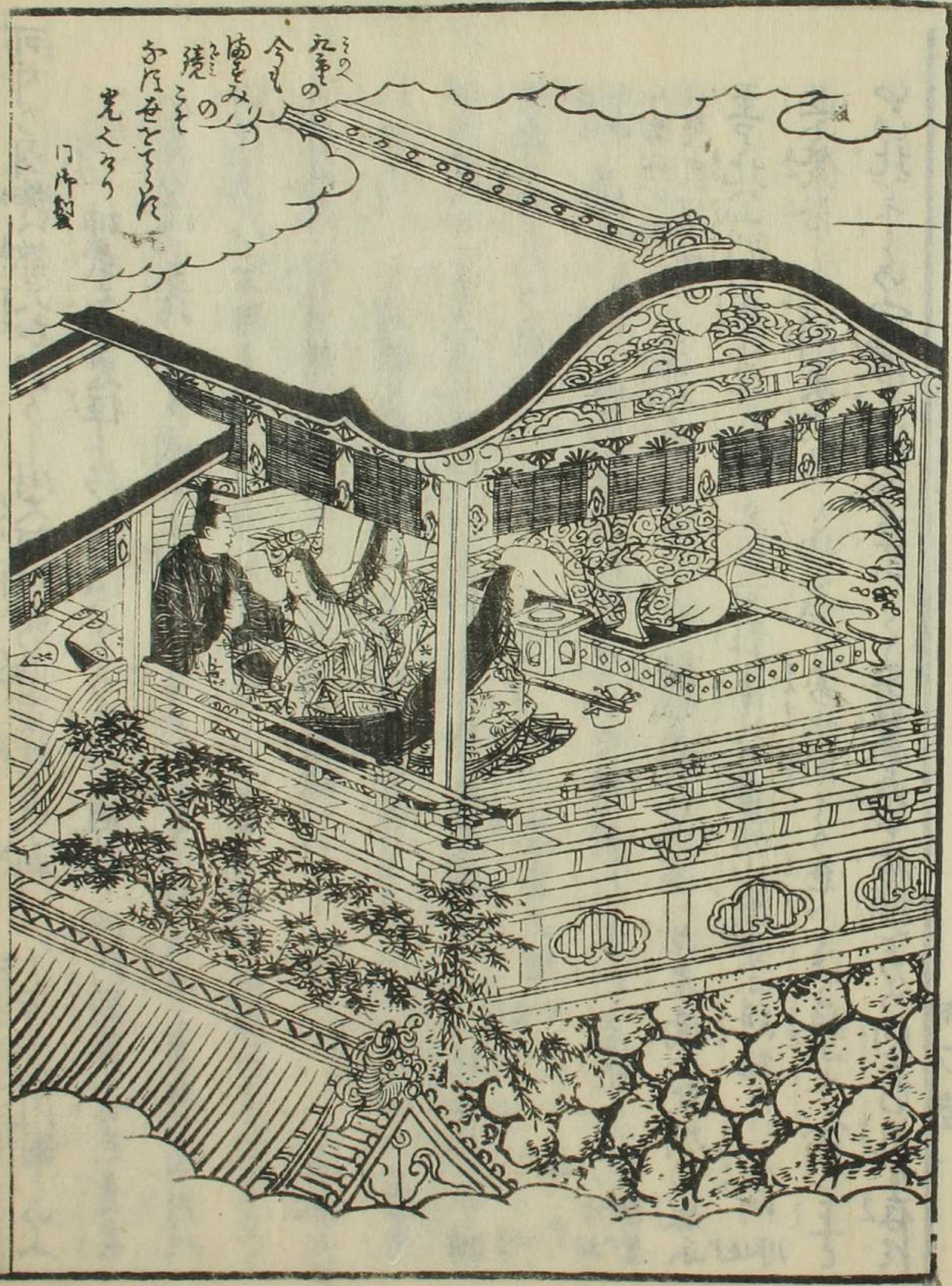
壺

南朝故蹟此攀躋練  
若巍然路不迷將就  
老僧訪遺事蒼杉深  
安社熊啼

愚山題







五事の  
 今も  
 備をみり  
 境の  
 おほせとてんた  
 光くろり  
 門作製



後村上帝  
 皇居  
 天野殿  
 觀月亭  
 南方紀傳云  
 南幸より  
 後村上帝宮不  
 本幣使まら  
 御門三條の  
 神宮とあり  
 あつくし  
 四の海井  
 波もおこはる  
 ちりちり  
 三ツの寶次  
 身を傳ゆる  
 後村上帝  
 作製

河一頁



河内の國都人知あり一河内國の西北に新所より上吉凡の國といふ  
九撮括 神武天皇東征之時波速より大に遷居し河内國草香邑青雲  
 白肩の津に至りて是國号の顯れり今皇十九代反正天皇都河内此  
 丹比遷都軍都之六年之末公榮羅宮とい是居小治と風雨和平より  
 五穀成熟人民富饒天下泰平といは國皇城のあり一綴之 元明帝力  
 所字小治一諸國の國郡の名を二字定り凡の字は省け 續日 元正帝垂龜  
 聖平甲子日之吉日根和泉の二郡を割て始と和泉國とい 類聚 延喜式云本國  
 管郡十四名あり錦部 或作石川 石川 太子傳林 古市安宿之縣 養光四年十二月  
 高安 俗呼恩 高安 智郡 河内 瀨良 更作 茨田 交野 若江 淡川 志紀 丹比 後村  
 丹南丹北後又割 此郡出六上郡 今管郡十六名之疆域東に和列西に和泉南に紀州の界ふ  
 至北山川の界ふ至都て東置里許南北十四里餘山嶽東に糾絡一之河  
 西に榮帶 北相東南高く西に低く多水南より西に小流る故小土人南と上と  
 とい北と下との風俗素樸淳厚ありて奢慕を忌む稼穡を力め尚古の風を存に

河一ノ卷

錦部郡

錦部郡 東に石川郡と西に和泉郡と南に紀州伊都郡とあり  
 北に丹南郡と南に和泉郡とあり 和泉郡の北に  
 天野山 和泉郡の東南にあり泉洲の東に七十八町之聖壽寺高徳同トカニ漢流の如き  
 後村上帝行宮 和泉郡の東南にあり其地天野殿と稱に  
 諸城 攝州の布政司とて今高田に在り  
 留山高屋城 和泉郡の東南にあり  
 飯盛山 和泉郡の東南にあり  
 二郡と珍努宮 和泉郡の東南にあり  
 遷 和泉郡の東南にあり  
 楠氏守護 和泉郡の東南にあり  
 足利の代  
 和泉郡の東南にあり

○後醍醐天皇 人皇九十五代 御諱尊治 後宇多院養二皇子正應元年  
 十一月二日誕生 嘉元二年十一月九日御元服 同日叙三位  
 德治三年九月十九日太子立 文保二年二月廿六日踐祚 御年二十一  
 同二月十九日御即位 延元三年八月十六日崩 吉野如意輪寺に葬 年廿



尊良親王

一品中務卿  
母贈從二位為子  
征夷將軍中務卿

若宮

一品御奥別宮  
又号淳美若宮

宗良親王

母同上号妙法院門跡尊登還俗  
征夷將軍兵部卿初本門跡還俗

興良親王

遠州宮  
天野周防守為檢

護良親王

号之格官尊之母兵部卿之位高師親女  
大宰帥上野太守早世

隆良親王

征夷將軍母准后親女  
於吉野被誅

世良親王

母宰相實俊女

女

恒良親王

東宮前坊  
母阿野中將公康女新侍賢門院

成良親王

上野太守  
征夷將軍

後村上院

御諱義良一品兵部卿母新侍賢門院阿野中將康女  
正平廿三年戊申三月十一日崩御河州檜尾山觀心寺後山築陵

忠尊法親王

聖護院母宰相實俊女  
初号淳美

懷良親王

征西將軍中務卿元中五年戊辰二月十八日薨去葬于肥後八  
代郡麓山

大覺寺宮

小園配流為名號  
被誅

無文和尚

遠州興山法興寺角山也  
入唐の人

長慶院

御諱寬成文中二年癸丑二月御讓位  
同四月八日御落飾法名金剛心

後龜山院

御諱熙成母嘉吉門院勝子近衛左大臣經宗女元中九年壬申  
北朝明德三年和平十月五日御讓位奉太上皇尊号應永

泰成親王

二十一年甲辰四月十三日崩御葬城州葛野郡北嵯峨福田寺後  
式部卿太宰帥 後征西將軍 高福院 長祿元年十二月二日為赤松被害葬  
和州吉野郡川上莊神野谷金剛寺

南方紀傳云

南帝 後村上帝即位之後一入道親房常隆困々神皇正統記五卷を  
獻せり先帝の女弟榮子御飾とありて名給ふ戒師は青蓮院慈道法親王也

其時女弟一首の歌と尊法親王母遣一侍  
あひまをさうたは清の一一はとをみ出るとみそめは神 女弟榮子  
色かゝる神のねをたかたか〜〜をみそめは神 女弟榮子

は頃吉野の新帝の河内天皇の御所へ皇居とせ給ふ楠友馬頭正儀和田  
和名正武夫人女弟殿小春〜〜奉聞〜〜富山入道道隆東八箇國の勢は率  
〜〜干萬騎に小京都一着〜〜山陽道播磨と限り山陰道丹波成

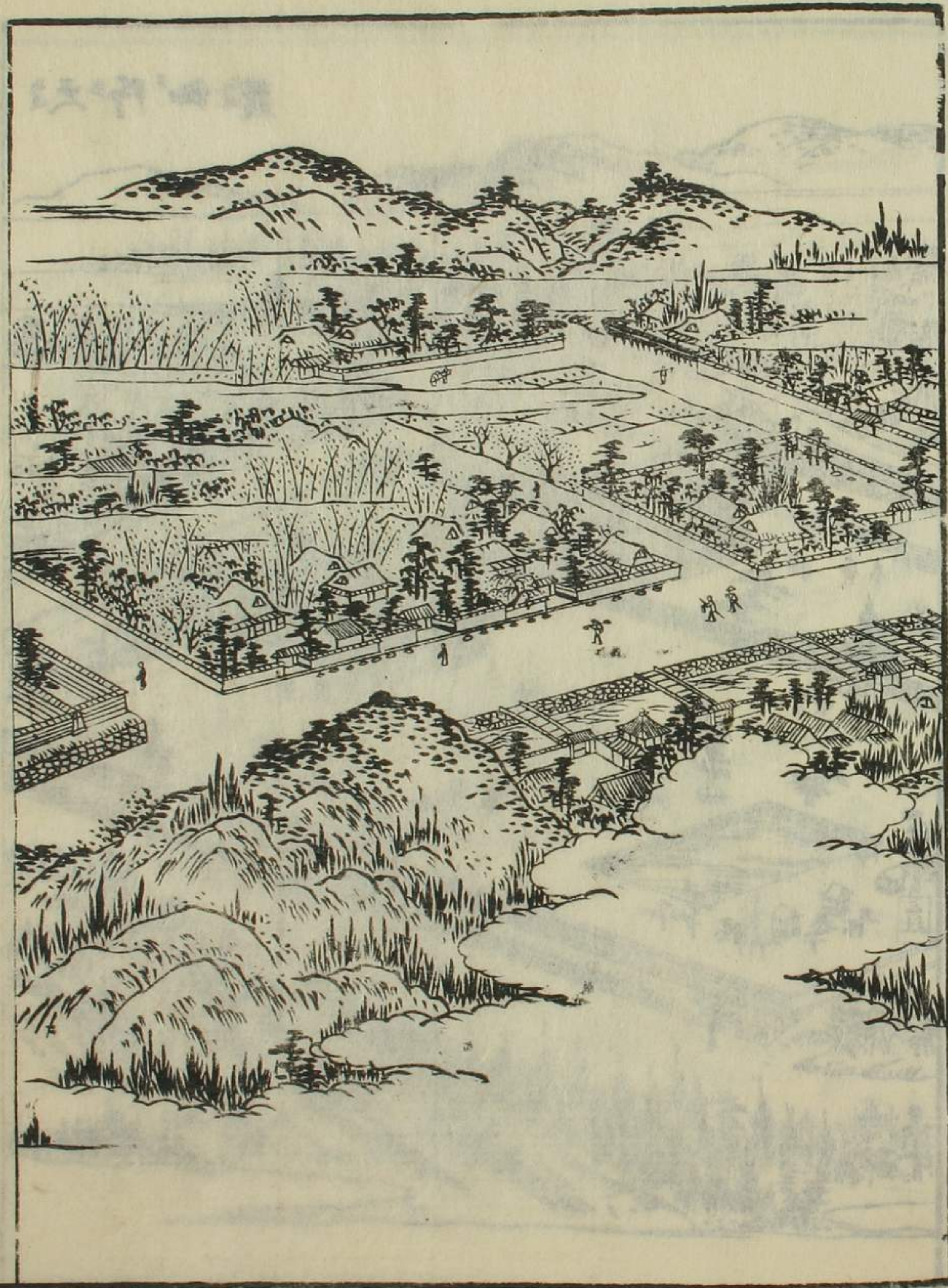
境東海山南海小陸道の五穀を〜〜上洛仕り〜〜敵の勢は定〜  
處の如く〜〜御合戦おぼし〜〜決定所方の儀〜〜料簡仕て〜其故を

軍は之を謀らば所謂之の時地の利のむすはけ中〜〜遠く討ち勢ありと









中野山金剛寺

表門

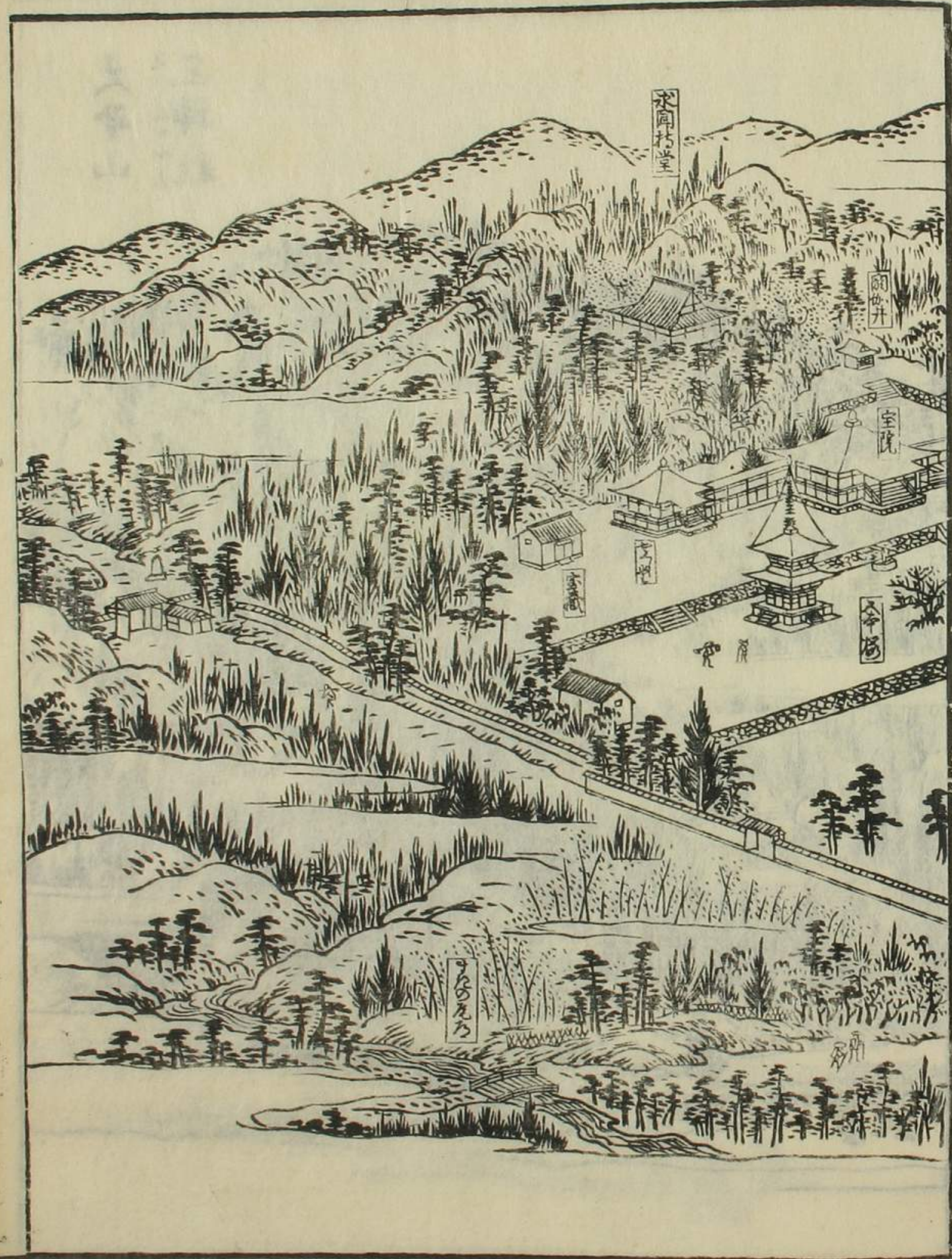
渡送る

またのりや  
君のえん

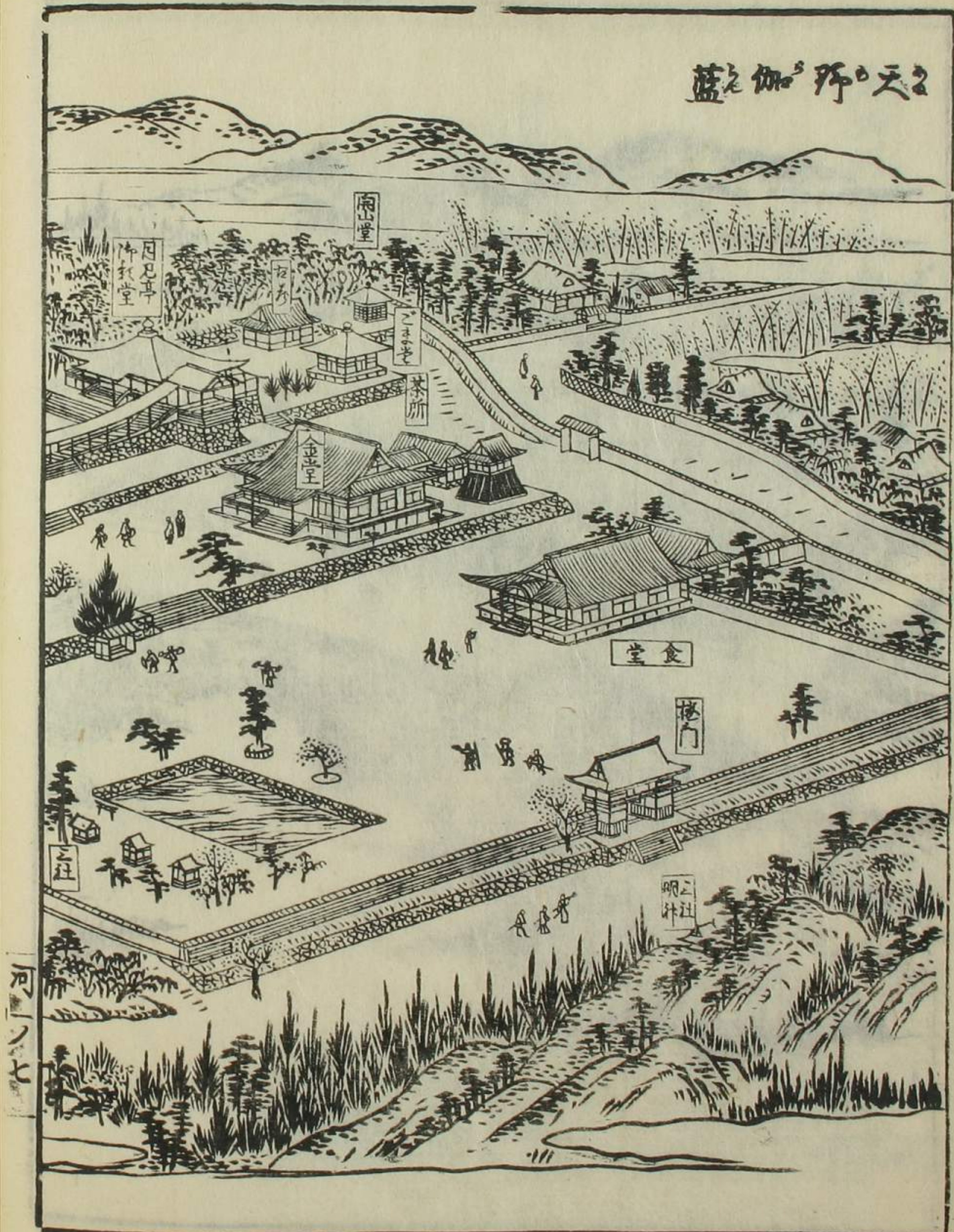
亭

河ノ大

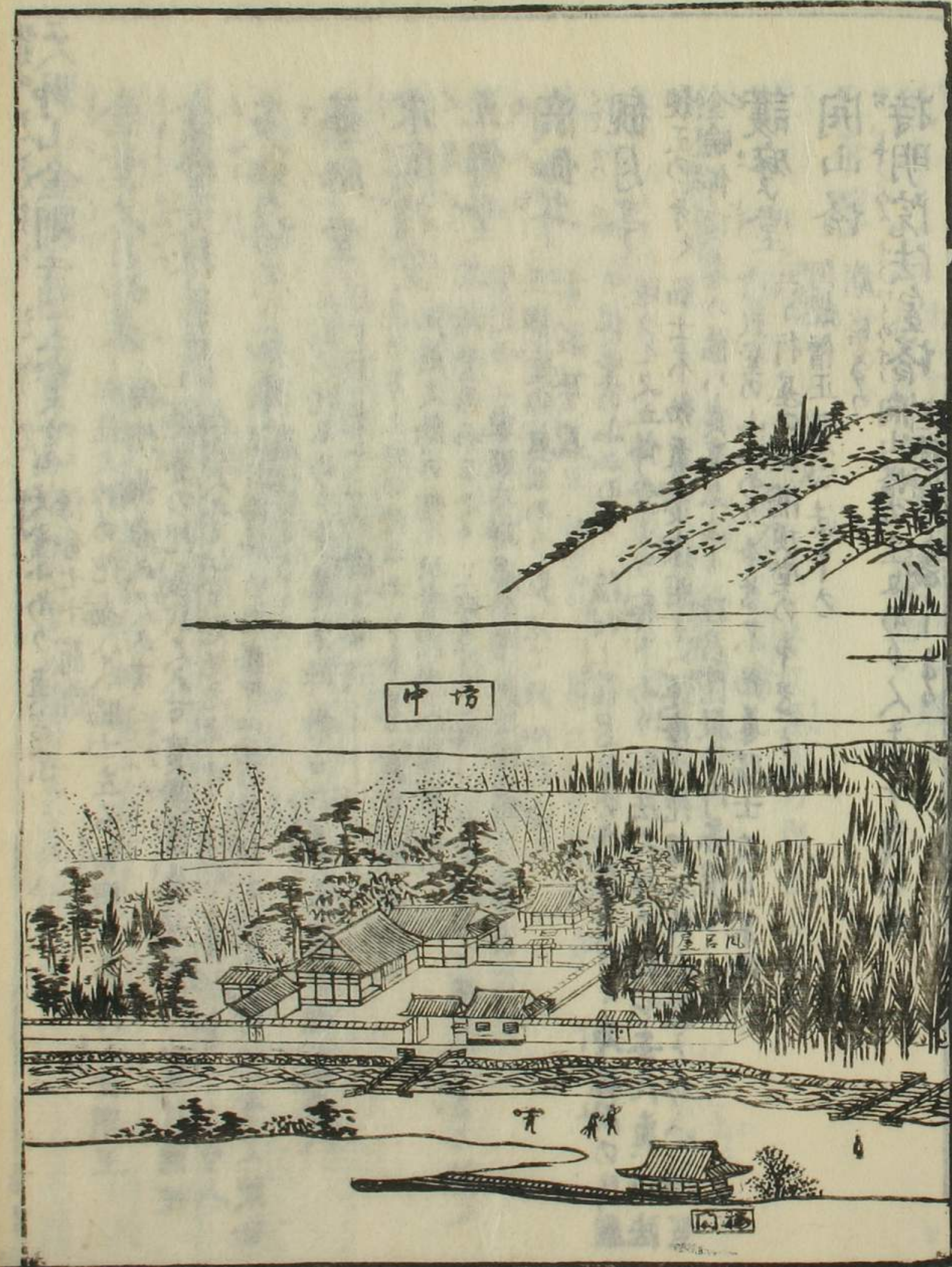




天竺の伽藍







天燈山  
えんとうのやま  
三神社





天野山金剛寺二寶院 天野山あり直三言宗

金堂之日如來 弘法大師の他長八尺脇士左不初明王右淨之世明王

食堂文殊菩薩 運慶の他長式尺六寸賓願盧尊者堂内小安に同他

多寶塔之日如來 法相師師の他塔中四面の透松を礎の畫ハ特堂大放動

藥師堂 上段の地あり平尊兼師師と行基菩薩の他長八尺

求闍持堂 西の方上段の地あり平尊兼師師と行基菩薩の他長八尺

五佛堂 兼師師の他長八尺二寶院と師師に五智如來と安に長目の他

厨伽井 五佛堂の奥あり弘法大師加持水

觀月亭 五佛堂の小あり後村上院月見の所殿今又堂被風の所殿

護摩堂 親王の御尊の儀ハ貞享年中桂昌院殿の所奉附之

向山塔 阿觀僧正覺心法下の

持明院法皇塔 綱山塔の上あり人王九十六代の帝

鎮守之社 南の方あり天照太神分財天

五弁櫻 金堂のち

樓門 東向毘沙門特國の二丈と安に運慶の他長八尺六寸

丹生明神社 樓門の東山腰あり丹生高堂水分神と併に丹生高堂あり

鐘樓 和泉の園まぐ十八間あり

觀音堂 春日師師の他長十一面觀世音と安に當山集令所

惣門 東向金剛が士の二王と安に弘法大師の所他

三當之葛城の崇岡古佛轉輪の聖跡阿育王鐵塔奉収の聖域あり

て僧正行基の草創あり厥后弘法大師密法成りニ密瑜珈の淨懺法也

星霜累りく四百歳と奉るる聖跡之荒廢後 後白河院清寧承元元年

紀の南の沙門阿觀あり教高聖明神養子聖若あり河内國天野澤に

生く廢蹟之興と下と奉阿觀之瓜瑞と云々昂錫と云々山小寺と云々箇



の教澤とるる異人岩上小蹠路に阿観云々（一）何人かを養育す我建水が  
此神天所澤も樓之阿観歡を盡及今之示現と符合をいふ翁ら度に  
備なきり方か一因茲皇隆の志願享く風媒も奏に後白河法皇歡心  
濟くは嘉安元年のまゝ屋敷に憲員お詔しく再宮の舟昂金堂食堂  
所教堂の諸伽藍悉成就及又併舍利と賜くく小安一又嵯峨奉此二  
皇子真如法親王の深きを弘法大師の圖画と所教堂も安一丹生あふの  
神祠と建く鎮護と一後白河院の勝とる右將頼朝卿の所教者建之三年  
一條女院牒と下しく傍坊二綱七十餘坊と建く一り同六年右判官代源義重  
寺領（國役諸役雜率長免除と）院宣と給く後白河法皇再建の由致と  
とのくす二皇子守實法親王の齋寺と多建保二年七月嘉陽門院故徳  
女院の芳信と感く喬岡と慈く女の高深と林野のふかきと學頭阿闍梨  
受宣あふの瑞光とく阿育と手鐵塔と感得一古併聖跡たる未きふとれり  
昂其出現の所と今塔花の元弘二年二月兵部親王（二）の令旨と賜て播州

西の庄と祈禱の用費も給く建武二年十一月後醍醐帝風詔と下て東寺修築  
の併舍利の粒とあふ取ると延元元年十月小勅願寺と成南朝の七年北朝の上皇  
滿宗の同年八月持明院上皇尊顯禪法下と戒師と一同九年南朝の皇居と  
當山は極伽藍念堂と常泐殿と一楠方は尉正儀和田和泉と武の英雄と  
と守護もとて所殿と林は同十年南帝の微君僧徒と勅と表忠と傳受と一め  
有銘の樂器と書附と法念公准と一り同十年持明院法皇御灌頂の志願ありり  
嵯峨奉の所灌頂あり一付弘法大師自画の胎金末那の會奉と一り連とあふ  
こ一之禪法下と一り灌頂の所と一樂其曼陀羅と勅とあふ納む後村上帝  
戲園と達一泉別齋庄持別山田と一緒給灌頂の料と四海法平の所修法毎年二月  
と一り同十五年申興阿観と賜僧正も任代々の聖王將軍嘉國の出家法  
持造の形持とあふと一り後白河院の徳と一銘磨白雲和松と書寶園とあ  
づるま梅白ひて雲の初巻谷研一杖子若の水月堂と松葉山園とあふ一實徳寺  
の聖徳寺比一杜詩山水の絶勝と書け一松葉山園と一り



文野山什寶大畧

两部之曼荼羅 二幅弘法大師著初卷中あり 同種子曼荼羅 中興阿觀

釋迦三尊種子 中將法比丘尼自製の寶鬘よりく繪立申一俗小

佛舍利 五粒後白河法皇山再興の時 東寺傳來併舍利 繪有あり

天之阿育王鐵塔 日本二箇の盡寶の其一なり

最勝王經 紺紙金泥 法華經阿結 紺紙金泥 光明皇后所著

之毘婆沙論 光明皇后 禰禰淨土經 中將法尼 法華經 日著 紺紙金泥

寶篋印陀羅尼經 明惠上人 念珠之連 阿觀僧正 持也

能作生玉 一顆弘法大師 鈴五結 明鏡 二持日大師 持也

泥塔一基 日大師 不動障之世尊 宅在法眼院也 巨寶金剛

阿彌陀佛 宅在 釋尊 張思恭 法華總法像 巨寶金剛

同講本尊 同著 陀羅尼品像 北興王 愛深明王 興教大師

之威德明王 香羽傍心 六觀者 阿觀傍心

弘法大師沖廟出現像 觀賢傍心 聖心院 廟後傍心 持也

後白河院心本代々繪肯院宣 二十九通

後香羽院建之采繪肯 十五通 大官家文書 二通

右之將頼朝卿已未代々將軍家文書 十九通 大官秀若公所書 式通

楠左衛門尉正成自筆 二通 同正行正時正儀等書 十一通

寶劍 長式尺寸銘 同 長二尺 同 長一尺寸五分 同 他

高麗笛 聖德太子 所持 琵琶 銘音林 同 式面 笙 一管已上四持 後村上院所書附

笙 銘音九 同 銘音法皇東銘 同 信貴山頼尊他

太鼓 鞆鼓 鉦鼓 以上之品 法村上院 緋威鎧 楠正成 持也

古皮貝足 旗指物 楠家 同

山水屏風 雙鳥 同 古法眼之像 同 土佐光信女著

純太鼓 小鼓 六挺 同

菊水旗 菊水の紋あり又非理法憲天の 秘傳兵書 二十一帖

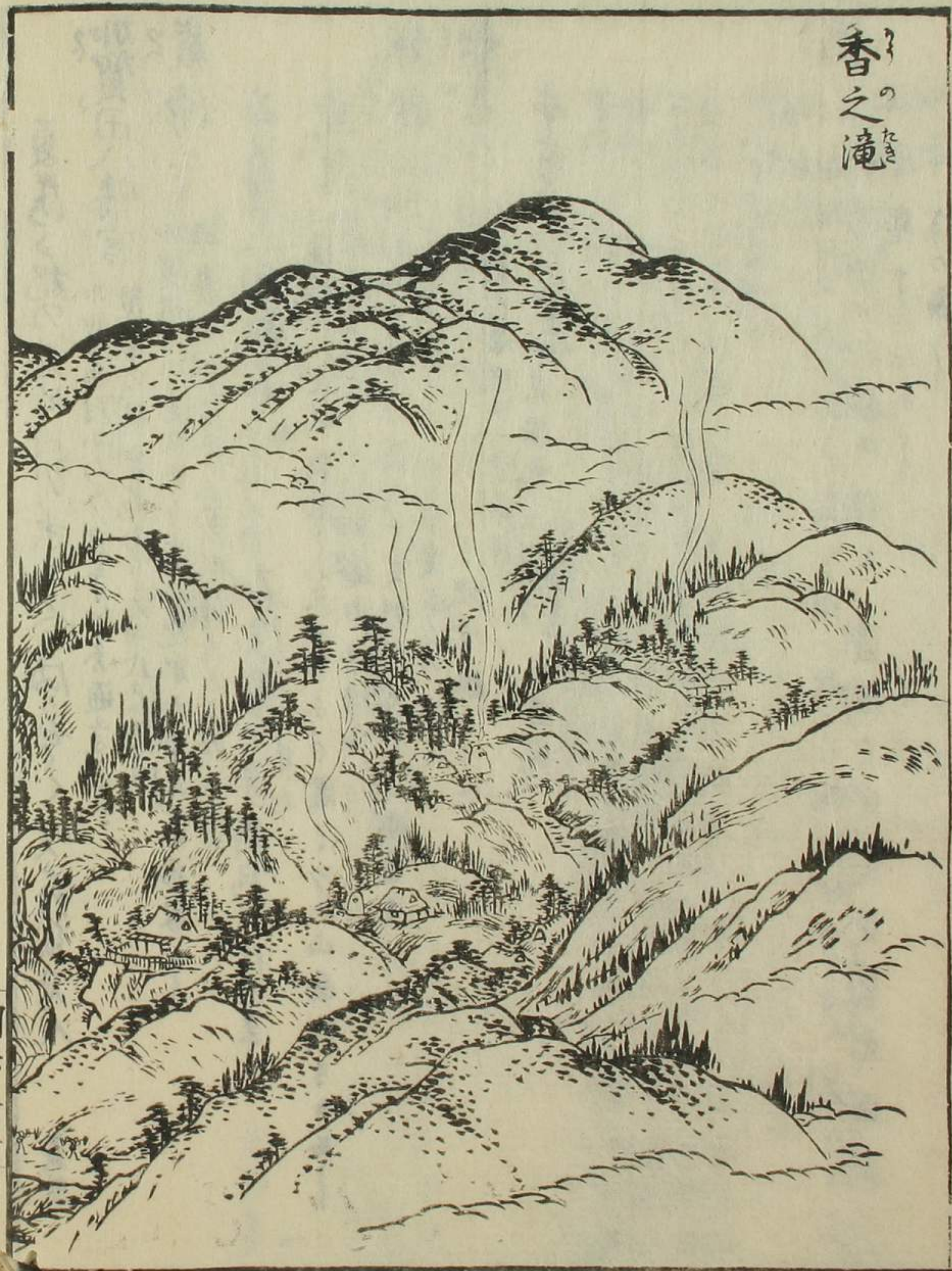






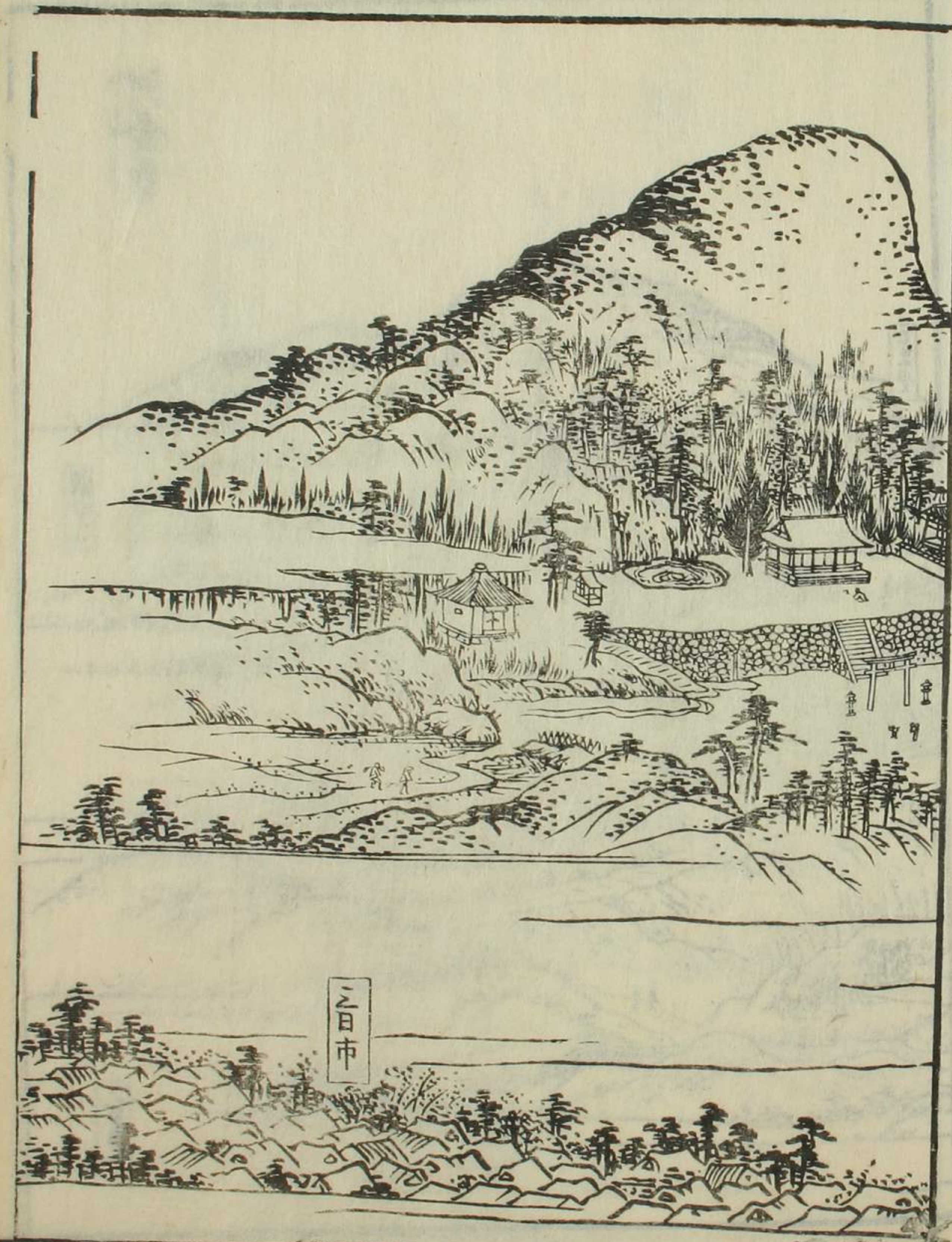


河六十三



香之滝





二百市

河一八十四

鳥帽子形八幡宮  
鳥帽子形八幡宮







楠公遺愛碑  
 服元喬撰  
 烏石山人書

子長公の遺愛  
 烏石山人書

烏石山人

河合寺



観心寺

法王

ごまき

三河







下くまのたのめりてあふのまは龍泉の二村本戸はあつて七同若小園成  
と川と仰る細川相模守清氏と赤松孝高龍泉と二十山陣とて居たり龍泉  
の縁波守てアヤふ先をからしめを但城切てふんを半又二大率をそしめて眞  
此を鋒とてふがれ馬を鞍並け旗を志げらる龍泉を有る相模守と赤松と龍  
取て肩ふかけけ道高為紐かろく龍泉の西に一城戸高櫓の下に上りたり

横山天神祠 横山村西條川の東涯小なり其側之叢の罅より潮水涌出る

西條川 石見川といふ大井壺原觀心寺等公經く紀見嶺の北より

金胎寺古城 横村の上方小なり建長年中執軍とてみ據り枝城十

寶珠山河合寺 河合寺村山中小あり

本尊十一面觀世音 長き尺六寸許脇土金胎兩部大日と不動明王

鎮守春日神祠 本堂の側あり河合寺村生土村とて

河合寺碑 堂ありあり銘を南郭先生茶入鳥石山人より

河内挾山晁子君采以邦大夫世采其封南河合邑  
邑有河合寺邑名馬記曰古者皇極帝二年勅建  
列朝相繼奉信增脩以至南朝最為崇觀與州之觀  
心金剛兩寺屹為三大利勅自數奉禱事勝國之亂  
諸閣壞廢大半而其國宣及楠氏所令手書至今藏  
鎮焉晁子之立碑於此為寺觀微乎存乎曰否為尚  
楠氏也何以尚之為楠氏遺愛也古者楠氏盡忠乎  
興國正平時南北戰爭數十年矣誠節貫天地知略  
盖四海恢復之功雖不成全其子其孫三世志業不  
渝實與南朝社稷相終始焉天下後世至于今時莫



不感<sub>ハ</sub>激<sub>ニ</sub>出<sub>テ</sub>涕<sub>ヲ</sub>喜<sub>ニ</sub>言<sub>フ</sub>其事<sub>ヲ</sub>焉是為<sub>レ</sub>遺愛也為<sub>レ</sub>楠氏遺愛  
 衆矣曷<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>獨<sub>リ</sub>於<sub>レ</sub>此河內與泉攝當<sub>レ</sub>其時楠氏世守也  
 前此攝有<sub>レ</sub>湊川碑泉則未聞焉爾而河內其所基據  
 遺愛尤存金剛千早城趾也何以不碑焉晁子曰吾  
 嘗略行<sub>ニ</sub>金剛千早一石不存噫蓋竟外爾蓋河合碑  
 則晁子遺愛乎我也遺愛乎我者遺愛乎己也因祖  
 之所遠聞而石乎私土甘棠之遺焉往而不愛以君  
 子之為亦有樂乎此也楠氏之功德天下後世至于今  
 時莫不感激出涕喜言其事焉所見同辭所聞同辭  
 所傳聞同辭是謂<sub>レ</sub>口碑備矣不必具列其事則不獨  
 其遺愛也寺觀雖微乎存後此以楠氏重則楠氏之  
 亦獨遺愛於此也此立石之志也寬保三年秋八月  
 服元喬撰烏石書晁泰亮立

觀心寺

表門卷

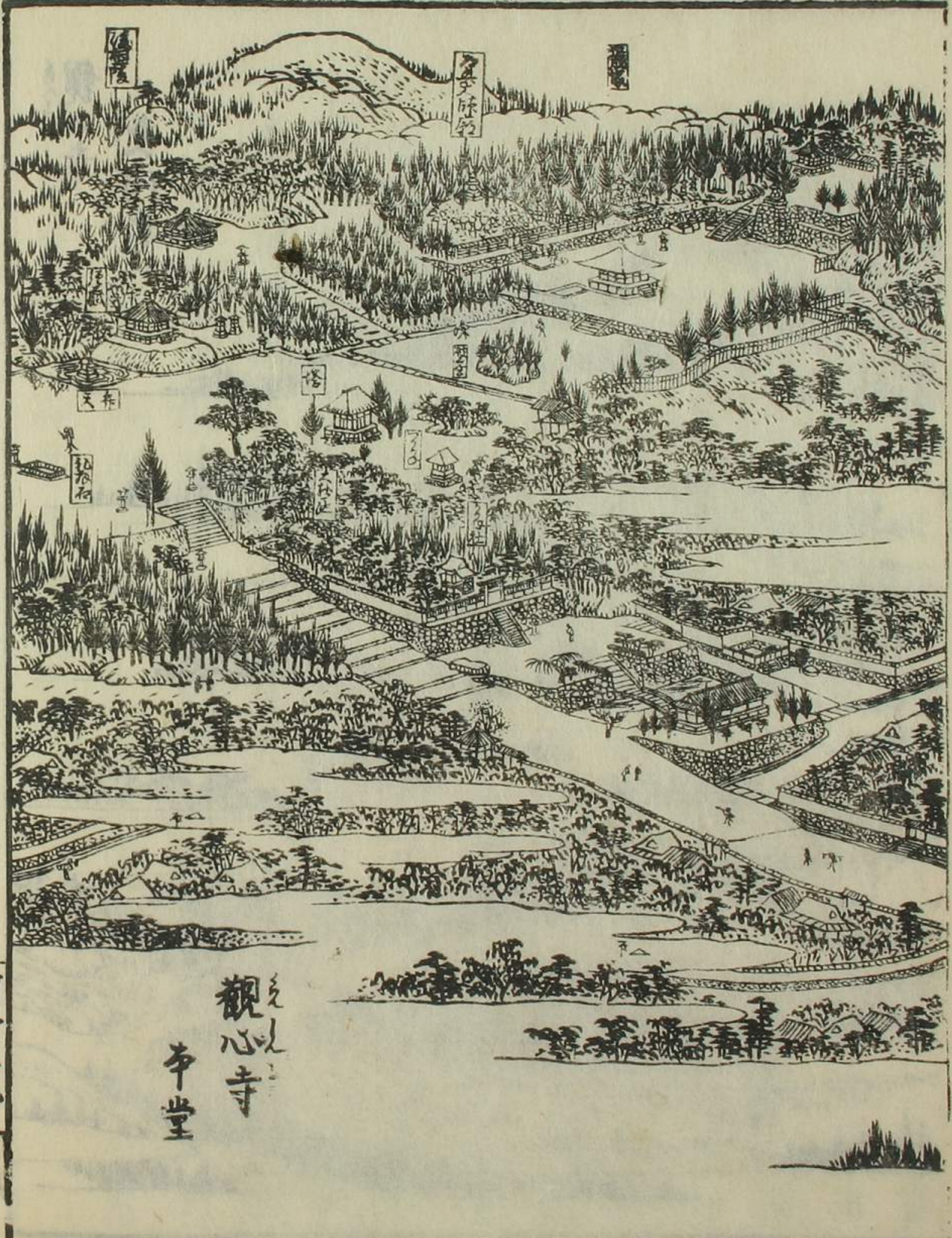






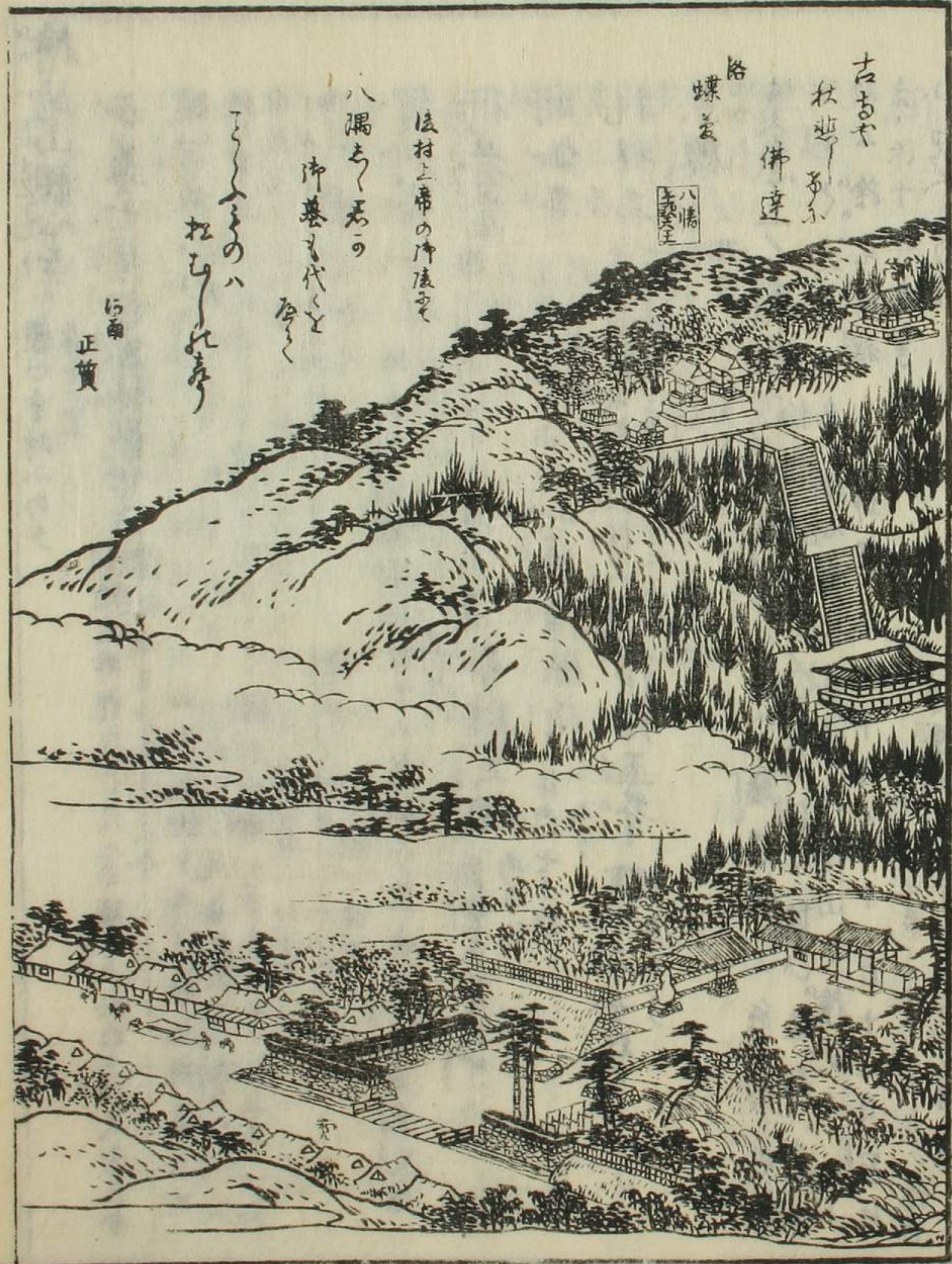
精河川墓  
 勤王汗馬出轅門  
 既得一朝雨露恩  
 莫道南天將星落  
 餘光千載照乾坤

吉田質

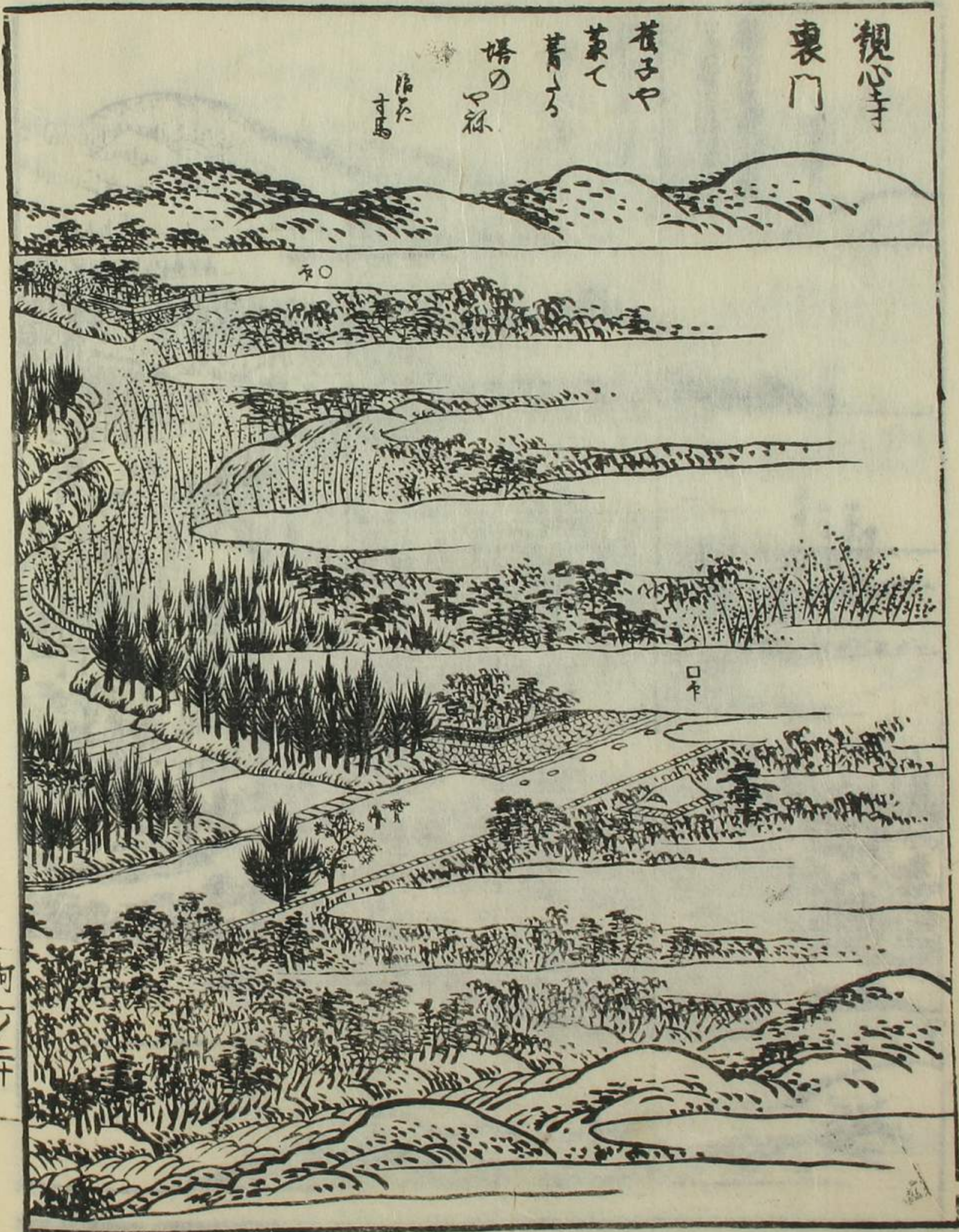


觀心寺  
 本堂





古きや  
 杖遊 寺  
 佛達  
 俗  
 蝶々  
 八幡  
 正實  
 法村上帝の神像を  
 八淵とく君の  
 神基も代くと  
 今く  
 こゝろのハ  
 ねりれき



観心寺  
 裏門  
 若子や  
 茶て  
 昔さる  
 塔の  
 心  
 俗た  
 寺馬

河二十



檜尾山觀心寺

觀心寺村あり

本尊七星如意輪觀世音

弘法大師作長七尺八寸脇士不動明王計尺六寸六分

建挂塔

心柱と大日表一阿彌宝生孫陀親如と安す楠正成建立の

外軍兵も礼拝して塔の九輪と下り灌漑も備はる太平紀ふる河

淨觀堂

弘法大師の像と安す 經堂 塔のわらあり 一切修と納む

賀利帝母社

神像毘首羯磨他計寸八分厨子長九寸計分糸お作

行者堂

西門の内あり役行者 弁財天祠 金堂の東依中

關伽井

金堂のわらあり 七星降除所 境内七ヶ所

系櫻

金堂のわらあり 弘法大師 杉銘玉井 實利帝母社の

實惠上人廟

金堂の東上り方あり 護國寺 隨心 五部密法

故小捨尾傍

紀年觀心寺と建堂 後山と檜尾と 本願院 廟の前あり 實惠の像と

年六十三元亨釋書

河ノ二二

楠正成首塚

延元元年五月廿八日 檜尾山 實惠の塚あり

送信是より息男正成中流傳説あり

表身廻八雲の地兵陣坂村廣敷村乃境内あり

正成相傳の遠作と地心とあり

卿後土佐の助三郎の地心とあり

鏡を納め楠正成靈源光國造と記し

傳を納め正成の徳と傳すとあり

傳を納め正成の徳と傳すとあり

傳聞正成教訓子弟眷屬

率土之濱莫非王臣爾況

君恩也不如一節以死報

我子弟于茲家族守訓言

有餘歲美名存乎不肖流

立而不耻思惟先祖之餘

寬政五癸丑歲仲春吉且

島山尾張守墓 正成塚の

謂曰溥天之下莫非王土

所補三州之守誠莫大之

國於聊不忠之輩不可為

專忠貞而不變至今四百

孫衣敝緇袍與衣狐貉者

光矣哉故鑄壙以垂永久

福成位欽書



後村上院陵 藤原の奥武町并みあり 藤原基業 藤原基隆 藤原基元 藤原基盛 藤原基隆 藤原基盛 藤原基隆 藤原基盛

南朝正平廿四年 北朝應安 二月十日 南帝 院 後村上 崩と若皇

如意輪寺小葬 後村上院と遷奉 同年冬十月 足利官領

細川頼之南朝を奏聞申揚る古の如く 持明院殿と之覺寺及

と一代かりし小治世ありしと之種神皇と北朝(清澄)

体しく南小治和隆遊ぐ 南帝清上治ありし公家武家の

本領本の如く兵小官加階相違ありしと再之奏聞と

之とも南朝の公卿武家等これを用ひしと和隆洞事か

け時南朝の領地ハ河内又和泉紀伊伊賀伊勢志摩飛騨

信濃上野越中越後伊豫備前石見長門肥後日向久隅

薩摩小國小征東將軍宗良親王九州小征西將軍良懷親王

勢弱小北島の國司かりしと南朝 南朝天授二年二月十日南方 後村上院の所七回忌若皇如意

論寺小於く大法舎あり導師ハ日登久傍正頼意具村宗良親王

和奇と旅く頼意(送り中)

我妻うちりて見たりんうかじりたも昔れつれかふ

志すともん 世の表はつらとそあてあつたとあつた面鏡

四つのもたれたの如くふとみたりきのふはまとおやろかぬきた

南方の皇居ら金剛山の奥観心寺と云ふはふれは左右なく故の

近くぬた所らるる共行候の清浄園又憑思召らる龍泉赤坂も

落され又昨日一昨日中を清方せし兵也も今日も多く清歌と成ぬ

と聞下るふ人松人素内者らるるくくくのふれ奥までい故責

入ぬと申沙汰しるは 主上とそとそまのそとそく女院皇后月卿と各

あいつとを登たと懼恐れさせし事限か

観心寺官符曰

寺壹院 在河内國錦都郡石川郡西郡南山中

大正記云







德無二懇志巧妙造作也密納寶庫不可出外  
戶矣  
右勘錄大概如件  
兼和四年三月三日

太上天皇 奎聖有之

真雅  
實慧

○此寺記弘法大師の上足真雅實慧西  
上人の勘録ありて後小松院の  
宸翰あり則中書判あり

公一孝銘並奥書示<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>深<sub>レ</sub>也  
應永後代龜鏡治<sub>レ</sub>の概明時鳳編<sub>レ</sub>也  
應永癸巳活洗中祥

関白經嗣判

御綸旨  
榮裏<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>尊愛榮王係就被<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>也  
永代勅願長日行法事  
統五<sub>レ</sub>持相應津業宜<sub>レ</sub>牙<sub>レ</sub>祈四海信<sub>レ</sub>也  
聖化<sub>レ</sub>依東寺長者法務傍正<sub>レ</sub>房<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>  
執達如件

正永十五年正月十八日

法中仲尊

觀心寺<sub>レ</sub>傍木

親心御編旨  
也心紀伊國正統聖治意<sub>レ</sub>の波沙汰<sub>レ</sub>也  
天司<sub>レ</sub>早<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>也寺家給者依  
正永十五年四月八日 惟況亮管時長  
進上

東寺長者僧正中房

棟正成書

此<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>動<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>動<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>  
寺傍<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>動<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>動<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>  
正成判  
十月廿六日

傍覺<sub>レ</sub>房

頓作<sub>レ</sub>造管<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>遷宮<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>凡<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>吾<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>  
必<sub>レ</sub>看<sub>レ</sub>訪<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>恐<sub>レ</sub>也

十二月一日

親心寺<sub>レ</sub>傍木

正行判



正儀書  
觀心寺位侶等申當寺座主織事申狀  
進上之細載狀免心仕方可方所披為  
急收儀  
三月三日  
左馬門尉正儀

進上 柳奉行百

河内國豐田庄内山田庄  
先創可被致管領也也他  
正平五年四月十二日  
左馬門尉到

左の玄鑑判と花押  
右の玄鑑判と花押  
正平二年九月十八日大和守不仁  
正平四年己丑正月  
正平五年四月十二日  
河内國豐田庄内山田庄  
先創可被致管領也也他  
正平五年四月十二日  
左馬門尉到

坊中植茶院器

茶壺  
二銘 持膏 十六表  
豐后太宰守石持

太刀  
二腰銘 一行平一正家 楠之新持  
行平 南朝天子より巻領

牧溪 觀者  
舜恭 夢子  
趙子昂 杜律持意  
若舟 觀者  
後唐圖

呂輝 孔者 若村 朱買 秋月 二笑

坊中院什器

青貝素鞍 緋絨腰巻  
江州志賀郡膳所城  
名劍多利

八幡宮  
觀心寺  
生土神  
親心寺  
生土神  
親心寺  
生土神  
親心寺  
生土神

鳩原  
親心寺  
生土神  
親心寺  
生土神  
親心寺  
生土神

三岳神祠  
石見川村  
又社の東小使渡あり  
一名川社と云

高向玄理  
錦郡郡の人  
推古天皇十六年  
隋小入く  
唐公受ク

高向麻呂  
日郡の人  
大寶二年  
從四位上  
政事と奏議せし  
免廢去元  
高向玄理  
錦郡郡の人  
推古天皇十六年  
隋小入く  
唐公受ク

高向玄理  
錦郡郡の人  
推古天皇十六年  
隋小入く  
唐公受ク



中納言小任<sup>は</sup>和銅元年從<sup>は</sup>三位小叙<sup>し</sup>  
攝津大<sup>は</sup>任<sup>は</sup>同八月薨<sup>す</sup>  
僧善<sup>は</sup>議<sup>は</sup>錦織<sup>は</sup>の人<sup>は</sup>之<sup>は</sup>戒<sup>は</sup>體<sup>は</sup>嚴<sup>は</sup>津<sup>は</sup>み<sup>は</sup>く<sup>は</sup>論<sup>は</sup>道<sup>は</sup>善<sup>は</sup>矣<sup>は</sup>  
師<sup>は</sup>く<sup>は</sup>博<sup>は</sup>識<sup>は</sup>洽<sup>は</sup>聞<sup>は</sup>其<sup>は</sup>の<sup>は</sup>旨<sup>は</sup>德<sup>は</sup>之<sup>は</sup>

名所圖會卷之一 終

河上王六尾



